

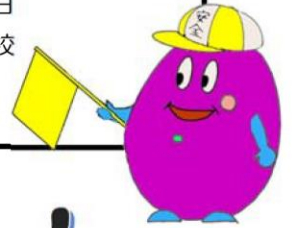


古都っ子だより

令和6年2月29日

岡山市立古都小学校

《心豊かにたくましく生きる児童の育成》 元気な子 やさしい子 考える子



協力しています 通学班！

先日の朝、小学校の通学路である九ノ坪踏切南側の交差点（コンビニ横）へ登校指導に歩いているときのことです。旗当番の保護者の方とお話をしていると、「たいへん！たいへん！」と何人かの子どもたちが慌ててやってきました。同じ通学班の小さい学年の子が転んで、川に水筒を落としてしまったというのです。班長は「ここは何とかするから、ほかの人は先に行って」と下級生に指示してその場に残り、副班長を先頭に歩いてきたとのことでした。

私は横断陸橋を渡って転んだ子の様子を見に行きました。すると国道の入り口にある住宅建材工場の守衛室の前に子どもたちの姿が見えました。様子を見かねた工場の守衛さんが声をかけてくださり、けがをした子の応急手当をしたり様子を聞いたりしてくださっていたところでした。けがをした子は泣いていましたが、守衛さんや上学年の子など周囲の人の励ましで泣くのをこらえて歩き始めました。班長の他にもう一人の6年生がその子に付き添いました。私は班長と一緒に少し先の場所で川に落ちた水筒を確認した後、けがをした子と一緒にゆっくりと学校に向かいました。

登下校の道中はいくら注意していてもいろいろなことが起こります。「交通事故」「トラブル」「不審者との遭遇」などの不安が尽きず、心配な方も多いと思います。しかし、班の子どもたちには機転を効かせて協力し合ったり、最善の方法を考えたりする逞しい力が備わっているものだと感心させられました。「自覚や責任」「友達への優しさ」など、今の班長たちは小さい学年のときから、大きい学年の人の背中を見て学んできたことが多くあったのでしょう。そして、下の学年の人たちは上学年のよい手本を学び、これからの自分の姿に映していくのだと思います。子どもたちが一列に並んであたりまえのように登校することは、社会のルールや相手に対する思いやりの心を学ぶ大切な場となっていると感じます。毎朝、子どもたちは私たち大人が思う以上にがんばって通学しているのではないのでしょうか。

子どもたちの登下校に関しては「学校保健安全法」という法律の中に定められています。学校は子どもたちに登下校の交通安全のルールを教えたり、警察や保護者と連携したりします。実際の登下校では、車が多い交差点での子どもたちの交通安全、人通りの少ない場所での生活安全等を守るには、保護者の皆さんや地域の方々をお願いして対応する以外に方法がありません。これは全国どこの学校でも同じです。

古都学区では、地域の見守り隊の方々、ご家族の方々などが通学路のいろいろな場所で安全を見守ってくださっています。地域の見守り隊では、小学生がいないご家庭の方も含めて大変多くの方が自主的なボランティアとして子どもたちを応援してくださっています。子どもたちのご家族の方も集合場所や横断歩道でお世話をしてくださり、安全な登下校が支えられているのはご存知の通りです。

子どもたちの見守りはいくら用心してもやり過ぎということはありません。見守ってくださる方が多ければ多いほど助かります。保護者の皆様が毎日忙しくされていることは十分承知していますが、時間の許すかぎり、ぜひ地域の見守り隊の方と一緒に子どもたちの様子を見ていただければ、これほど心強くありがたいことはありません。どうぞよろしく願いいたします。

(校長 石井 聡)

裏面に続く